



文
字
の
散
歩
道。



道がつづら折りになつて、いよいよ天城峠に近づいたと思ふ頃、雨脚が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追つてきた。

私は二十歳、高等学校の制帽をかぶり、紺飛白の着物に袴をはき、学生カバンを肩にかけていた。

暗いトンネルに入ると、冷たい零がぽたぽた落ちていた。南伊豆への出口が前方に小さく明るんでいた。

川端康成（1899～1972）「伊豆の踊子」より抜粋

Kawazu is an art gallery of the scenery.
Kawazu-cho has been described by many of Japan's leading literary figures, including Yasunari Kawabata, Toson Shimazaki, and Yasushi Inoue.

文学の散歩道

伊豆は風景の画廊である。川端康成はこの地をそう言い表わしました。深い森が、豊かな水音が、そして、あたたかな人情が五感を包み込む。幾多の作家の心を刺激し、名作に描かれた河津。その真髓にふれる散歩を愉しんでください。



「伊豆の踊子」にも描かれた天城山隧道（旧天城トンネル）は明治37年完成。石作りのトンネルとしては、国内最長（445.5メートル）を誇ります。まだ一高生だった川端康成が天城を旅して、ここを訪れたのは大正7年のこと。

最後にとうとう谿が姿をあらわした。杉の秀が細胞のように密生している遙かな谿！何というそれは巨大な谿だつたろう。遠靄のなには音も聞こえない水も動かない滝が小さく小さく懸かっていた。

梶井基次郎（1901～1932）「冬の蝶」より抜粋

陽が雲に隠れると風が冷たかったが、しばらく歩いて、バスの通る街道から谷へ降り、森の中の小径を、天野が、かねて調べておいた旧下田街道へ向かって、森林の杉の落葉が重く積もった小径をたどり、溪流に沿つた小さな草原に出ると、二人は弁当を開いた。

池波正太郎（1923～1990）
「天城峠」より抜粋



河津川は一見平凡な様相でありながら、鮎をねらう釣師にはかなり魅力のある川である。しかし伊豆の人は、河津川筋の人でも狩野川筋の人でも、釣の技術にすぐれている。私は土地の子供と川に並んで釣っていても、ときどき恥かしい思いをさせられることがある。

井伏鱒二（1898～1993）「河津川筋」より抜粋

その天城越えの道を、バスで一分ぐらい行つた所に谷津という温泉があるが、私ははじめ、ここに長期滞在して仕事をしたものだ。山ふところにちょっと入り込んだ所で、中略、閑静で、たいへんいい所だった。

谷津へ二年ぐらい通つたろうか。三年目からは、谷津の少し手前の今井浜に行くようになった。中略、今井の浜の白砂青松の眺めに憧れたのかも知れない。

石坂洋次郎（1900～1968）「奥伊豆参り」より抜粋



天城嶺の森を深みかうす暗く
降りつよむ雪の積めど音せぬ

若山牧水（1885～1928）「雪の天城越え」

湯ヶ野で行きあたりばつたりの宿に入った。私の服装は、粗末な、しかし安い部屋に通されることに役立った。晩めしにお銚子を注文すると、断られた。この一週間はキノミヤ（来宮か）さんの忌日で、このあたり河津村の宿屋では、一さい酒を出さないしきたりだという。

深田久弥（1903～1971）「わが愛する山々」より抜粋



天城の裾が低い二つの尾根となつて、なだらかに南に伸びて居る間を、溪流が細々と流れて居る、其の流れに沿つた其処はささやかな温泉場なのです。天城の隧道を南に抜けると、やがて下田街道に沿つて、蜜柑のよく実つた細長い小さな村——その村の通りから折れて竹の茂った谷川の方へ五六歩下りると、もう其処は、水に臨んで、「内湯」と軒燈を出した三軒の温泉宿になつて居るのです。

中島敦（1909～1942）
「藤・竹・老人」より抜粋



海岸の眺望はいかにも美かつた。西風が吹くと海上の靄は吹き払はれ、沖の島々がはつきりと見える。大島は近く、利島は遠い。その間に鵜渡根島といふ小さい三角の島が見える。南には七子のささやかな突端のむかうに、おなじ万歳山が海中に深く下ろした根の一方である堺の岬があり、そのかなた、谷津の竜宮と呼ばれる岬と爪木崎がたたなはり、夜になるとその南端に廻転式灯台の明かりが見えた。

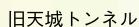
三島由紀夫（1925～1970）「真夏の死」より抜粋



龜井勝一郎（1907～1966）
「鮎つり」より抜粋

昭和十四年頃の河津川は遠来の鮎つりの客はまだ少なかつた。鮎も豊富であった。最初のときなど太宰と私は、釣るのがめんどうくさくなつて、子供の使ふたもで岩の上からかがんですくつたものである。三四寸の小さいやつならいくらでもすくひ上げられた。今から思ふと、嘘のやうな話である。

ようこそ、河津へ。



河津咲く。

天城山系からの清らかな水は、幾多の滝に磨かれ田畠を潤し、両岸に桜の木々を従え、やがて海へと注ぐ。この河津川を中心とした環境で、河津町は発展してきました。山が迫り、温泉が湧き、海が開けている。天城トンネルが、ループ橋が、河津桜が観る人を癒す。山の幸にも、海の幸にも恵まれ、花と緑があふれている。河津を表わす言葉はたくさんあります。その一つひとつが、自然と文化とふれあいを心に咲かせる河津町の魅力を語っています。



かわづ花菖蒲園



わさび田



伊豆見高入谷高原温泉



かわづカーネーション見本園





河津七滙



踊り子温泉会館



河津バガテル公園



駅前の幹線道路



国道135号線

A lot of nature and cultures

The Kawazu-cho is given to farm products and seafood, and the flower and green overflow.

トから。

ようこそ、河津へ。

新世纪
ふるさと開花計画
自然が映えるほっとなまち河津
Sakura.

森林セラピーの森を歩く。 伊豆元気わくわくの森公園



山田重吉さん
「この鉢の山は、30万坪あります。子どもの頃、よく遊んでいました。山頂には、貴重な石仏も残っているんです。皆さんに、この自然とこの文化的な遺産を楽しんでいただきたいですね」



家族みんなが楽しめる森林公園として整備が進んでいた河津町のはば中心に位置する、鉢の山一帯。桜の丘や森の小道、広葉樹の森、山頂広場を備えた「伊豆元気わくわくの森」とネーミングされ平成20年6月に本格オープンしました。その山頂へと至る1.6キロのメインの歩道が「森林セラピーロード」。全国に広がる「癒しの道」のひとつとして、平成19年に林野庁関連の機関から認定を受けています。心を解放する心地よい道を、わくわく歩いてみませんか。



森林セラピーとは、森林を利用した活動を通して、健康の増進や、病気の予防・治療・リハビリを行うこと。森の自然がおりなす景色や香りにふれることで、森のもつ「癒し効果」を充分に活用しようというものです。鉢の山では、家族や友人同士がゆったり歩ける広い道を整備。密集する檜の香りや、森に響く鳥の啼き声を楽しみながら、自分のペースで山頂を目指せます。山頂付近からは伊豆七島や天城連山が一望。標高619メートル、第1駐車場から約1時間の道のりです。

森林セラピーの推進は、それぞれの地域が独自のサービスを訪れた人に提供する「保養地としてのサービスのブランド化」を進めていくものです。これからも、森林ガイドの養成・組織化や施設の充実など長い目で見た上質化を図っていくことが大切です。「森林セラピーの町」としての河津町も新しい一步を歩き始めました。

心癒されるひと時、河津の新しいスポット

ふるさとの良さを見直す。ふるさとの良さをアピールする。

そんな「ふるさと開花計画」が新しいプロジェクトとして実を結びました。河津町の新しい時代に向けて「癒し」をテーマにした2つのスポットでゆっくりと心を休める、豊かな時間をどうぞ。

Two spots have been completed under the theme of “healing” with a view toward a new era for Kawazu Town. These are the ravine hot spring Izu Midaka Iriya Onsen and Forest Therapy Road which will set your soul free. These facilities provide local people and tourists with a precious opportunity to give their minds a rest in a leisurely manner.

山麓の癒し湯へようこそ。 伊豆見高入谷高原温泉



国道135号線から車で5分、緑濃い森林に抱かれた日帰り温泉「伊豆見高入谷高原温泉」。源泉と静かな周辺環境を生かし、この地区の活性化と新たな観光の拠点として、平成19年6月にオープンしました。まるでふるさとに帰ってきたような感触が味わえる懐かしい、くつろぎの湯です。



落ち着いた雰囲気の浴槽につかれば、目の前は、一面の森林空間。泉質は、アルカリ性単純温泉。神経痛・関節痛・疲労回復に効果があります。小規模ではあるが、アットホームなあたたかさがいっぱい。観光に訪れた人と地元の人とのふれあいも、楽しみの一つです。



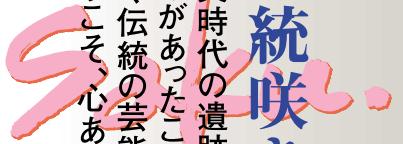
森に溶け込んだ佇まいは、秘湯の趣き。玄関前では大きなひめしゃらの木が、お客様をお迎えします。男女別の浴室のある浴室棟と厨房・和室の休憩室を備えた休憩棟。休憩室では、飲物や簡単な食事を楽しめ、入浴後の時間をゆったり過ごしていただけます。また、手づくりのマーマレードや麦まんじゅうも、たいへん人気を集めています。



伊豆見高入谷高原温泉
TEL.0558-32-3556
営業時間：午前10時～午後9時
休館日：毎週木曜日
利用料金：大人500円・
子供250円

伝統咲き、まつり咲く。

縄文時代の遺跡後から、ここで豊かな人の
営みがあつたことが知られる、河津町。いにしえの時代から
続く伝統の芸能やまつりも、また数多く受け継がれています。
ようこそ、心あたたまる行事咲く河津へ。



河津川沿いの約4キロの両岸に植えられた河津桜。おだやかな河津川の表情ともよく合っています。例年2月初旬の「河津桜まつり」の時期は、早咲の桜を愛でに、100万人の観光客が訪れます。遊歩道から手の届くほど近くで桜を見られ、たいへんに賑わいます。

◆河津桜まつり

正月を迎えると、河津の町では、早くも桜の話題が人々の口の端に上がります。2月上旬から約1ヶ月間、大きめのピンクの花を咲かせる「河津桜」はまさに河津の誇り。河津川沿い4キロに及ぶお花見ハイキングロードは、この桜まつりの時期だけで、全国からの

100万人を超える訪問者で沸き返ります。夜桜ライトアップや無料の足湯サービスなど訪れたひとにも好評のイベントも年々盛んになっています。



オープニングセレモニー



◆河津浜・天王神社祭典

正徳3年（1713）創建の天王神社。7月中旬の「天王さん」の夏祭りは、土地に代々伝わるお役番と厄年の若衆を中心に執り行われます。ホラ貝を先頭に、神輿や山車、お神楽で氏子廻りをします。

また、河津浜では神輿、もろとも海に入る豪快で勇壮な姿を観ることができます。



河津浜夏祭り（浜の天王さま）

◆大鍋・子守神社秋の祭典

子守（ねのかみ）神社は天正12年（1584）創建。安産・子宝の神として知られます。

毎年、10月15日の秋祭りには約290年ほど前から伝わるお神楽が保存会によって奉納されます。奉納舞と道化舞、それぞれのお面をつけて大地を強く踏んで邪気を払う、力強い舞が特徴。県の「無形民俗文化財」に指定されています。

◆天城路もみじまつり

赤や黄色の葉で全山が染まる紅葉の季節。



◆見高神社三番叟

見高神社は天平5年（733）創建。



毎年、秋の大祭に伝統芸能として上演される「三番叟」は町の伝承にちなんだもの。江戸時代、見高村出身の名歌舞伎役者「四代目市川小団次」を訪れた村の青年達がこの三番叟の指導を受け、村に帰り、さっそく演じたのが始まりとされます。また、廻り舞台の神楽殿も貴重な文化財となっています。



見高神社の三番叟

天城路が最も美しく輝く毎年11月1日から開催されるもみじまつり。オーブニングでは、踊り子も参加。多くの文豪が愛した天城の魅力を紹介。旧天城トンネルでは、提灯の無料貸出を行い、トンネルを歩いて往時を味わう体験イベントも開催します。



◆来宮神社の大楠

まつられる神様は「木の神・火の神」。毎年、暮れには信者の「鳥精進」。



「生まれてきたからにはあの世へ行く。人間は何で死ぬんですかと聞かれて、生まれてきたからです。」和尚さんの講話から。

◆湯ヶ野温泉踊子まつり

3月上旬、小説「伊豆の踊子」ゆかりの地、湯ヶ野温泉で行われる踊子まつり。小説の舞台になった温泉宿「福田家」の横にある、「伊豆の踊子」文学碑に、踊り子と学生に扮装した地元の若者が献花。参加者に、甘酒等をふるまいります。

◆涅槃堂の寝釈迦像
寛永年間に建てられた涅槃堂には、全身を金箔で被われた寝釈迦像がまつられています。
寛政8年（1796）頃の作といわれ、全長約240センチ、檜材の一本造りで、像の背後には阿弥陀三尊を中心とし、24体の仏様がならんでおられます。目にするとだけで、敬けんな気持ちが広がってきます。



来宮神社の大楠

酒精進」の愛鳥・禁酒の週間があり、怠るとよく火事が起ることの伝承があります。境内の大楠は、樹齢約1000年の、国の天然記念物。この楠からも、この神社の創建の古さがうかがえます。

惰るとよく火事が起ることの伝承があります。境内の大楠は、樹齢約1000年の、国の天然記念物。この楠からも、この神社の創建の古さがうかがえます。

元気咲き、ぬくもり咲く。

「みんながいきいきと活躍できる、ぬくもりの町」をめざす河津町。そのために、保健福祉サービスや文化施設の充実を計り、さらに成長する環境づくりをすすめています。ようこそ、心のびのびと元気咲く河津へ。



なごやかなデイサービス風景



◆いきいきデイサービス

いつまでも、地域で長く自立した生活を送るために。生きがい発見、体力づくり、仲間づくりなどを目的にした福祉サービスの「つがいきいきデイサービス」。

町役場に併設した「保健福祉センター」で、高齢者を対象に、送迎、入浴などの各種サービスを実施しています。

昼間一人になるなど、外出の少ない人にも充実した一日を楽しんでいただくデイサービス。集会室にもにぎやかな会話といきいきした笑顔が弾みます。

◆いきいき介護予防教室



「いきいき介護予防教室」風景

「高齢者いきいきセンター」で行っている「いきいき介護予防教室」は、3日間（6日間）コースを設定。各日約2時間で、介護を予防するための講話などを始め、健康チェック、健脚度チェック、転倒予防やバランス訓練などのストレッチ、レクリエーションなどを実施しています。

介護を予防して自立した生活をめざす高齢者の大きな支えとして役立っています。

乳幼児読み聞かせ会会場風景
乳幼児達は真剣に聞き入っています



「高齢者いきいきセンター」で行っている「いきいき介護予防教室」は、3日間（6日間）コースを設定。各日約2時間で、介護を予防するための講話などを始め、健康チェック、健脚度チェック、転倒予防やバランス訓練などのストレッチ、レクリエーションなどを実施しています。

◆乳幼児読み聞かせ会



毎週木曜日の朝10時、赤ちゃんや幼児を連れたお母さんや家族の方が続々文化の家に集まります。

みんなが座って絵本の読み聞かせ会の始まりです。図書館員とボランティアの方が一緒にやって運営するこの会は「はらべこあおむしの会」として、平成18年5月にスタート。絵本にじつと見入ったり、手遊びのリズムに身体を動かしたり…。



やさしい語りかけは、子どもの想像力を育て、心を豊かに満たすと言われています。部屋にあふれるみんなの楽しい笑顔が、なによりその意義を物語っています。

◆学校給食センター

整備事業

肥満や生活習慣病の増加、食品の安全性や食糧の需給など、食に対する関心の高まりとともに、食育の推進と学校給食の重要性が増しています。

河津町学校給食センターでは、元農家の協力を得て地場野菜を使つた「ふるさと給食」を取り入れるなど、食育に取り組むとともに、徹底した衛生管理のもと、町内の幼稚園・小・中学校へ給食を配膳しています。

平成21年度には、オール電化で調理能力1日900食の新しい学校給食センターから、さらにおいしい給食を届けます。

よく学び、よく遊び、よく食べて、元気な「かわづっこ」に。



平成19年から始まった地場給食の調理

◆特定健診・特定保健指導

◆特定健診・特定保健指導

平成19年に、町で行つた基本健康検査のデータでは、メタボ該当者は男性で約27%、女性で約10%。まだ全国平均より低い数字ですが、これから時代は油断はできません。「メタボ」の該当者やその予備群の人にはさまざま「特定保健指導」で、生活の改善をサポートしています。

「心豊かでチャレンジ精神旺盛な人づくり」の拠点として、平成15年河津町立文化の家が開館しました。町内産の木材を使つた落ち着いた空間の中、天窓からはいつもやさしい外光が降り注いでいます。併設の図書館では、24,000冊を超える蔵



血圧を測定する保健師

平成20年から、これまで町が行つてきした基本健康検査は、この「メタボ」に着目した特定健診へと変わりました。

The photograph captures the interior of a modern library. The most prominent feature is a high ceiling made of light-colored wood, characterized by a complex network of exposed beams and a large, circular skylight at the apex. Below the ceiling, several rows of bookshelves filled with books are arranged against the walls. In the foreground, there are study carrels with wooden desks and chairs, some occupied by students. The overall atmosphere is bright and airy, with natural light filtering through the windows and the skylight.

図書館も兼ね備えた「文化の家」



書を始めDVDソフトやパソコンも用意。また、床暖房を設備した乳幼児用の読み聞かせコーナーや本検索用のタッチパネルも設置。さらに、スクリー
ン完備の生涯学習室はさまざまな研修会などに利用されています。子どもからお年寄りまで、気軽に利用できる、まさに出会いと学習の場とな
っています。

暮らし咲き、ふれあい咲く。

一人ひとりの暮らしづくり・健康づくりを
積み重ねてできる、魅力あふれる町づくり。河津町では地域福祉や
環境整備の充実も、年々多彩にすすめられています。
ようこそ、心すこやかに幸せ咲く河津へ。



各種健診を推進しています。(10ヶ月児健診)



◆乳幼児健診

急速に進む少子化の時代に向けて、地域社会で総合的に子どもたちを育てる環境づくりもまた急務になっています。河津町では、3歳までの乳幼児健診の無料実施や6歳までの保険対象医療費を無償にするなど乳幼児の健康医療に積極的に取り組んでいます。

また、子育てに関する情報の提供や、保育ママ制度など、地域の福祉や施設を柔軟に活用することで、子育て支援の体制を強化しています。

◆町営マイクロバス運行



地域の便利な「足」として親しまれている町営マイクロバス。逆川から河津駅と西小学校を結ぶ路線で、1日13便運行しています。バスが到着すると、元気な小学児童を中心に、登下校の中・高生徒、病院へ通院の方や買い物にお出かけの方などが乗り込んでいきます。低料金で利用できるのもうれしいポイントです。

さらに、町全体で交通事故防止・減少を図るために、交通安全教室の開催や横断歩道・信号機の設置など安全環境の整備にも取り組んでいます。

◆地域防災訓練

「備えあれば憂いなし」の言葉通り、大きな災害が起きた時こそ、普段の心構えが大いにものをいいます。幾度の災害を経験した河津町では「地域は自分たちで守る」の意識も高く、地域防災訓練では自主防災会を中心になって、本番さながらの訓練を繰り返しています。また、災害時の拠点となる公共施設の耐震性向上や物資の緊急輸送のヘリポートや港の整備なども進めています。

いざという時にも安心できる町づくりはみんなの力を結集して、前進しています。

校長先生自ら登校生をサポート



◆環境美化の日

以前から行われていた町内一斉清掃が「河津町きれいな町づくり条例」の制定で明確化されました。年一日、5月の最終日曜日に地区ごとに町民参加で、ごみ拾いや草刈り、側溝さらいなどに精を出します。また、河津川漁協組合員が河津川沿いのごみ収集にもあたります。平成18年度の実績では、2000人以上が参加。ごみ類が約4トン、空き缶がなんと約7万個収集されました。美しい町は、自らの手で守ろう。という気運は、ますます高まっています。



地区ごとにごみ拾いや草刈りなどを行い、清掃作業が終わつたあとは、本当にすがすがしくすっきりとした景色となりました。

道路環境美化のため、道路ぞいの花壇の手入れをするかわづ花の会のひとつ、「下佐ヶ野花の会」のメンバー。毎年花壇コンクールもあります。



◆シルバー人材センター奉仕作業

高齢者の方の豊富な知識と経験がさまざまな分野で活用されているシルバー人材センター。

河津町では100名弱の方が、会員として登録、多彩な職務に就いていますが、日頃のお礼として公園の草刈作業や剪定作業などの奉仕作業にも汗を流しています。チーンソーや草刈機など、高度な安全性が求められる作業については、そのつど安全講習会を行った後に実施。しっかりと経験がキラリと光る、まさにいぶし銀の活動が広がっています。



農産物など地場産品の販売や、姉妹都市白馬村からりんごやそばの販売、商工会の商品半額交換市、福祉団体のバザーなどがお店されます。



公園の草刈や剪定の奉仕作業を行う河津町シルバー人材センターの会員のみなさん。

◆河津ふれあいまつり

平成19年からそれまで別開催だった「健康ふれあいまつり」と「物産市」が同時開催となりました。みんなの健康と福祉、さらには町の産業発展をもテーマにした大規模なまつりとしてスタート。健康チェックを始め、物産品の販売コーナーや各種体験コーナーなど多彩なイベントを会場いっぱいに展開。観光客の方とのふれあいの場としてはもちろん、なにより町民同士の楽しいコミュニケーションの場となっています。



行政と議会



櫻井 泰次町長(右)
岸 重宏副町長(左)

河津町は「自然が映えるほっとなまち」を目指し、町民と行政が協働による町づくりを展開しています。何よりも誇れる豊富な自然と歴史や伝統をもとに、活発な交流が生まれる活力のある町へ、行財政改革を推進し効率的・計画的な行政運営を進めています。

河津町議会は、町民の代表である12名の議員で構成され、定例会4回と必要に応じて開催される臨時会とがあります。議会は、町民の意見を行政に反映させるとともに、行政のチェック機関としてあらゆる面で開かれた議会運営を目指しています。

Government and Diet

The townspeople and government cooperate to expand town building with the aim of making Kawazu Town a “hot town where nature flourishes.” Our abundant nature, history, and tradition are what we pride ourselves on above all else. Based upon these, we will advance administrative and fiscal reforms and promote efficient, systematic government administration in striving to be a vibrant town which gives rise to vigorous exchange.

The Kawazu Town Council is comprised of 12 members who represent the townspeople. Regular sessions are held quarterly, with extraordinary sessions held as needed. The Council reflects the opinions of the townspeople into government and aspires to operate the Council in a manner that is open in all regards as a regulatory agency for the government.



中村 聰議長(左)宮崎 啓次副議長(右)



河津町議会議員

姉妹都市

長野県

白馬村

北アルプスが迫る
白馬村



スキーや海で子供たちは楽しく交流しました。(姉妹都市交流事業から)



白馬村は、長野県の北西部に位置しており、南北に16.8km、東西に15.7km広がっています。白馬岳、杓子岳、白馬槍ヶ岳(白馬三山といいます)、五竜岳をはじめとする北アルプス白馬連峰が眼前に迫り、その麓には、豊かな田園風景が広がっています。

当村は、恵まれた自然資源を活かした観光が主産業です。急峻な山岳美をみせる北アルプス白馬連峰や個性豊かな7つのスキー場、村内に湧き出る効能豊かな温泉、歴史ある千国街道など、目的は様々ですが多くの観光客が四季を通じて当村を訪れます。

交通網は、1998年長野冬季オリンピックを契機に飛躍的に整備されました。また、お客様をお迎えし、おもてなしする施設・サービスも飛躍的に向上しました。

姉妹都市河津町のみなさんが当村を訪れてくださることを心待ちにしております。白馬村の自然、施設、サービスがみなさんを温かくお迎えします。



白馬村村長
太田 紘熙

災害時相互応援協定締結都市

渋谷区 東京都

平成16年11月、地震など大規模災害で被災した場合に備え、東京都渋谷区と災害時相互応援協定を締結しました。この協定は、大規模地震等により災害が発生した場合に、両自治体が職員の派遣や食糧・日用品その他必要な資機材の提供、被災者の受け入れなど、幅広い応援対策及び応急復旧対策を実施するほか、防災訓練時の応急救援物資等の搬送など相互参加や今後の災害時の実効性を高めるための対応を行っていきます。



渋谷の街頭を踊り子たちが訪れました



Special Thanks.

表紙に登場していただいた方々:塩田 心和璃さん、相馬 良則さん、仲 里司さん、橋本 久子さん、東 虹樹さん(50音順)。そして、20ページに踊り子役で登場いただきました、第20代「ミス伊豆の踊り子」渡邊貴子さん。ありがとうございました。



写真のバラは「伊豆の踊子」
Dancing Girl of Izu
2001. メイアン(フランス)作

河津町勢要覧2008 (町制施行50周年)

発行:静岡県河津町
〒413-0595 静岡県賀茂郡河津町田中212番地の2
電話 0558-34-1111(代表)
URL <http://www.town.kawazu.shizuoka.jp/>

発行日:平成20年9月
編集:河津町総務課
制作:(株)ぎょうせい